

寄稿

で、当時所属していた日本国際政治学会でもそのような提案をしたことがある。

75回目の終戦記念日

やってきましたが、肝心の戦争の正式名称が未だにはつきりしない。メディア

は一般的に「太平洋戦争」と呼び、学校でもそう教えているが、例年、天皇陛下や内閣総理大臣は8月15日の全国戦没者追悼式（今年はコロナ禍のため式典は小規模に縮小）

のあいさつでは、決まって「先の大戦」とか「あの戦争」と呼ぶ。

戦後75年も経ってそういう言い方しかできない状況は異常と言わざるを得ない。年配の人々にとってはともかく、若い世代の人々にはいかに不可解な話だろう。世間では若者たちが戦争のことを知らないと言っているが、その責任の半分は、いつまでも戦争の呼称さえはつきりさせていない大人たちにあると思う。

◆「アジア太平洋戦争」を正式呼称に

私は、かねてから「アジア太平洋戦争」を正式呼称として広く定着させるよう提唱している。退官後、大学で国際政治学を教えるようになって、その必要性をますます痛感するようになったの

いつまでも「あの戦争」でよいのか？

外交評論家 金子 熊夫

戦争」が正式呼称であった。真珠湾攻撃の四日後の昭和16年12月12日の閣議決定による。

戦後、占領軍（GHQ）の命令で「大東亜戦争」の呼称は禁止され、「太平洋戦争」が使われるようになり、現在に至っている。米国はじめ連合国が戦争中からそう呼んでいたからだ。

確かに、真珠湾攻撃以降3年8か月の戦争を「太平洋戦争」と呼ぶのはそれほど間違っていない。実際に戦ったのは主に日米両軍で、西太平洋が舞台であったからだ。

◆戦争の歴史的意義と今日的意味合い

だが、日米開戦の10年前の1931年に中国・瀋陽（旧奉天）郊外の柳条湖事件で始まり、37年（合国）とヨーロッパ戦域の盧溝橋事件を経て、通

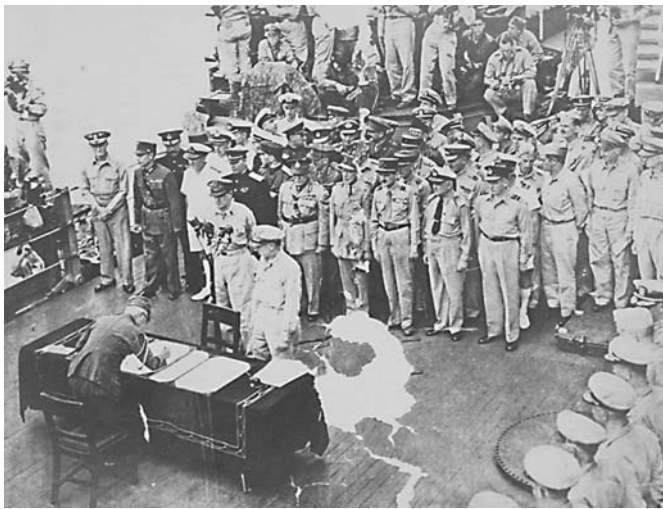
算15年間続いた日中戦争や、アジアのその他の地域で展開されたすべての戦争を含めた総称として「太平洋戦争」は適切とはいえない。

ちなみに、もう一つの「第二次世界大戦」という呼称は、性格の異なる二つの戦争、つまりアジア太平洋戦域（日本対連合国）とヨーロッパ戦域（ドイツ、イタリア対連

合国）を一括りにしたもので、両者の相関関係を世界的に把握するには便利だが、どうも日本人にはぴんと来ない。その他さまざまな呼称が各国の歴史学者によって勝手に使われているが、いずれも一長一短があり、定着していない。

そこで、この際「太平洋戦争」と「大東亜戦争」を合わせて「アジア太平洋戦争」（英語ではAsia-Pacific War）を公式呼称とすれば、日本だけでなく、戦争に関係したすべての国々に受け入れられる最大公約数的な呼称になるだろう。

ミズリー号艦上での降伏文書調印式。後ろ姿は当時の陸軍参謀総長、梅津美治郎（1945年9月2日（国立公文書館のHPより）



かねこ・くまお
元外交官、元東海大学教授（国際政治学）。新城市出身、83歳。

83歳。